

関係人口と共働した文化財と博物館資料の活用－飛騨市モデルの報告－

三好清超（飛騨市教育委員会）

Developing Local Heritage Information with Help from Outside: A Case Study of Hida

Miyoshi Seicho (Hida City Board of Education)

- ・ 飛騨みやがわ考古民俗館／Hida Miyagawa Archaeology and Folklore Museum
- ・ 石棒クラブ／Sekibo Club・関係人口／Associated population
- ・ 人口減少／Population decline

はじめに

飛騨市では、少子高齢化という社会課題に対し、関係人口を拡大させる取組みとともに、関係人口同士や関係人口と飛騨市民との交流を図るような仕組み作りが必要と考えている¹⁾。このような市の指針のもと、文化財を担当する文化振興課では、文化財の本質的価値を地域資源の魅力として広く全国・世界に発信し、飛騨市の認知度向上に寄与する必要があると考え、保存と活用を同程度に重んじて業務を進めてきた。筆者らはこれまで、年間30日開館の飛騨みやがわ考古民俗館を舞台に収蔵資料の活用を図る石棒クラブについて、理念を述べる機会²⁾、実践報告の機会³⁾をいただき、人口減少下にある飛騨市で文化財情報の取得と公開を行う在り方と意義を述べた。しかし、そこでは石棒クラブの強みは何か、活動をいかに評価していくのかという点で課題が残っていた⁴⁾。

本稿では、自らの価値認識と客観的な評価という2つの課題解決に向けて実施した、令和3（2021）年の飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブによる事業を報告し、飛騨市の文化財活用とその効果について述べたい。

1. 飛騨市の取組と経緯

（1）飛騨市の文化財保護行政

まずは飛騨市の現況や、これまでの取組みについ

て概述する⁵⁾。飛騨市は岐阜県の最北部に位置する。総面積 792k m²のうち 93 %が森林、市域に北アルプスがかかり標高差 2600m、市域の大半が特別豪雪地帯である（図1）。人口は現在2万3千人ほどであり、高齢化率が39 %である。2045年には1万3千人にまで人口が減少すると予測する。所得を稼ぎ納税する生産年齢人口等も、今後大きく減少する見込みである。これら等のことから、人口減少を止めることは不可能と考えており、全国の人口減少の30年ほど先を進む「人口減少先進地」と認識している。このような背景の中、市の文化財保護行政としては、文化財の本質的価値を地域資源の魅力として広く全国・世界に発信し、「飛騨市の認知度向上」に寄与することが求められている。



図1 飛騨市位置図（地理院地図白地図を用いて作成）

このため、筆者が所属する文化振興課では、文化財を多くの方の目に触れて認知させ、文化財の価値ひいては飛騨市の価値をさらに高めることを目的に活用事業を実施している。それは、大学教授等による歴史講座、高校生による地域研究の成果発表、ホームページ・SNS・動画、市広報誌などによる市内外への調査研究成果発信などである。特に、近年は史跡江馬氏城館跡と史跡指定を目指す姉小路氏城館跡の保存活用が事業の中心である(図2)。これは、現代の街並みの祖型が中近世に求められるため、市民に馴染みの深い文化財から力を注ぐという考えに基づいている。その上で、市内の考古資料と民俗資料を保管展示する飛騨みやがわ考古民俗館において、関係人口の拡大を目指した石棒クラブが活動を行ってきた。

(2) 石棒クラブの取組み

石棒クラブは、飛騨市の関係人口を増やすプロジェクトの一つとして、2019年から飛騨みやがわ考古民俗館で活動する任意団体である。石棒クラブでは、飛騨市の参加型プロジェクト「ヒダスケ!」や文化庁の地域と共働した博物館創造活動支援事業なども活用し、石棒撮影会、石棒クラブインスタグラムによる一日一石棒(#sekiboclub)、博物館オンラインツアー、YouTube動画配信、3Dデータの商用利用などに取り組んできた⁶⁾。その実践で、オンラインによる活用は本質的価値を共有しやすくなり、経済

的価値も付与できれば、より一層持続可能な形で文化財を継承することができるという見通しを得た。

このような見通しを持って活動を行うにつれて自治体や博物館等からの問い合わせが増え、石棒クラブの事業が当初思い描いていたことより多くの期待が寄せられていると感じるようになってきた。このため、改めて誰にどのような影響を与えているかを検証し、さらにそれを評価していく必要が生じてきた。

2. 評価を踏まえた活動

(1) 石棒クラブのmission・vision・value

第一に取り組んだのは、自分たちのmission(存在意義)、vision(ありたい姿)、value(行動指針)を改めて認識することであった。そこでお世話になったのが鳥谷真佐子氏である。鳥谷氏は阿児雄之氏・野口淳氏を研究分担者とし、「博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築」と題した研究を行っている⁷⁾。その内容は、博物館が設置者・運営者・来館者以外の多様なステークホルダーとの新たな関係構築も意識して評価を行うという認識のもと、「システムデザイン・マネジメントのツールを活用し、各博物館の活動をミッションに紐付けて確認すると同時に、関係するステークホルダー間の価値循環を可視化し、両者を統合することで、各博物館が生み出す価値を評価するための評価項目作成フレームワーク作成」を行うものである。

そのワークショップを受け、2020年の石棒クラブによる企画で、関わった個人や団体に提供してきた価値を確認しようと試みたのである。その結果、価値を提供できた個人や団体としては、市民、来館者、飛騨市のファン、縄文ファン、博物館ファン、同様の課題を持つ自治体や博物館、考古学研究者、これまで当館やその収蔵資料を保護してきた先輩方、これから関わるであろう市民や来館者などが認められた。また、提供できた価値としては、満足感、幸福感、誇り、居場所作り、運営手法、適切に保存管理してきた博物館資料などが上位に認められた。次

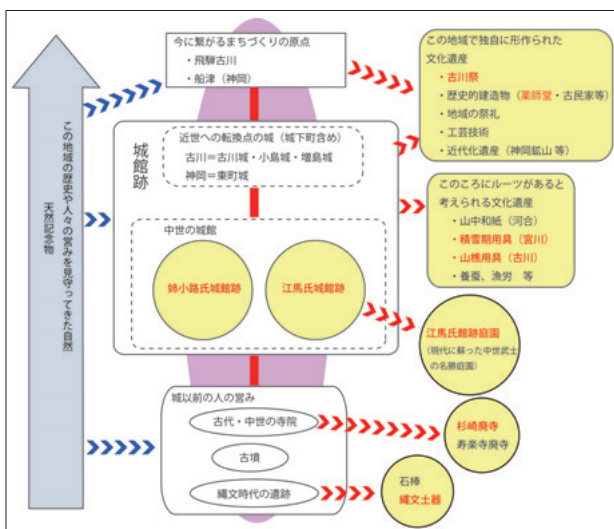


図2 中世城館を中心とした文化財の保存活用イメージ図

に、個人や団体間にて、報道機関に取り上げられると市民の来館が増えるなど具体的な価値連鎖も見えてきた。このことから、石棒クラブは以下のように mission・vision・value を定義した（図3）。

mission は、石棒をはじめとした文化財の活用を通じて、未来の新しいミュージアムの姿を創り出すこと、また、飛騨市や日本全国そして世界の人に幸せを届けることである。vision は、あらゆる人が文化財を楽しみ、人生を豊かにするためのプラットフォームになることである。value は、飛騨みやがわ考古民俗館の資料を調査し、守り伝えてきた方々に感謝と敬意を持つことである。また、そうして明らかになっている館の価値を様々な媒体でオープンにし、多様な個人や団体に届くような企画を考えることである。さらに、そのために3Dなどの先端技術を用いるチャレンジを行うことである。

このような自己分析を経て、次に価値を提供した個人や団体について考察を深めた。

（2）飛騨市による関係人口の分類

飛騨市では、関係人口を関心人口・交流人口・行動人口と仮定している。この分類を、飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブに置き換えて整理した⁸⁾（図4）。

関心人口はホームページやSNS、報道等で館の名称を聞いたことがある程度の層である。関心人口を増やすことは裾野を広げることにつながると考えられる。

交流人口は、講演会等に参加する層や実際の来館

者である。石棒クラブの発信だけでなく、報道等に取り上げられることにより館の価値を認識した来館者が該当する。また、学会等での発表や書籍で館の取組を知って問合せをしてきてくれた博物館の学芸員や研究者、博物館ファン等も該当する。

行動人口とは、石棒撮影会や3D データ化のボランティア参加者、ふるさと納税で飛騨みやがわ考古民俗館へ寄付された方、収蔵資料を研究対象として学会等で発表される研究者等である。実際に館のために行動する層と認識している。

（3）各カテゴリーへの調査研究のアプローチ

このように関係人口を分類すると、それぞれのカテゴリーへのアプローチは一様ではないと考えられた。まず、関心人口へのアプローチとは、これまで館の存在を知らなかった層と館との関わりを生じさせることである。このため、石棒クラブでは、博物館と他分野との接点が増えるよう意識して事業を展開した。例えば、飛騨市の資源という括りで博物館と広葉樹、3D という括りで骨格標本と石棒などである。それにより、多様な分野とファンをシェアすることができると考えたのである。また、共催事業も積極的に行った。例として、NHKと重要文化財「遮光器土偶」の3DCGを8Kモニターで観察する学習を飛騨みやがわ考古民俗館で実施した。また、Panasonic クリエイティブミュージアム「AkeruE」とは飛騨みやがわ考古民俗館の縄文土器作り体験を実施した。これにより、これまで決して交わることがなかった人たちと接することができた。さらに、

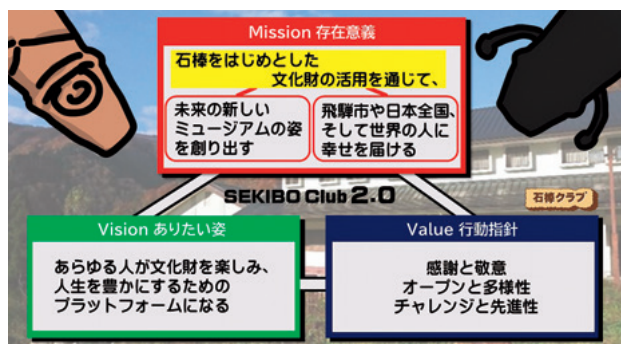


図3 石棒クラブのmission・vision・value

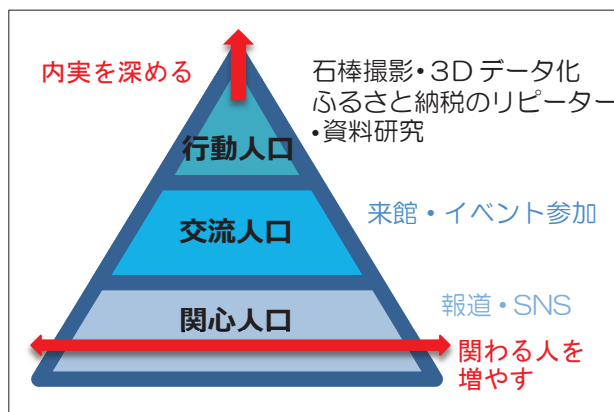


図4 石棒クラブにおける関係人口の分類

表1 飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブ関連の報道掲載等一覧表（2020年4月～2021年12月）

年	月	日	機関名	圏域	タイトル等
2020	5	4	NHK	東海	閉館施設で「オンラインツアー」
	5	13	FM岐阜	岐阜県	ウィークリー飛騨
	5	27	東京新聞	文化	譽田亜紀子の古代のぞき見 石棒作りに勤しんだ人々
	6	11	朝日新聞	社会	来館年300人 飛騨の博物館 Zoom無料ツアー盛況
	7	1	中京テレビ	東海	コロナ禍での博物館オンラインツアー
	7	18	中日新聞	飛騨版	石棒のポスター、絵はがきを製作
	7	18	飛騨市民新聞	飛騨市	石棒ポスター完成
	7	21	岐阜新聞	飛騨版	縄文クイズ 石棒王は？
	7	21	中日新聞	飛騨版	クイズ「初代石棒王」に古川中の伊倉さん兄弟
	7	26	ヒットFM	飛騨	お出かけ情報
	11	11	岐阜新聞	飛騨版	「石棒」の魅力伝えたい 今日から飛騨市で周知イベント 人気投票や喫茶店で縄文食提供
	10	24	朝日新聞	岐阜県版	考古ファンにPR パンフレット刷新
	11	17	朝日新聞	岐阜県版	縄文「石棒」魅力発信
	11	19	信濃毎日新聞	長野 社会	石棒の頂点挑む 「総選挙」に佐久地域の4本 考古学者の会「良さ伝えたい」
	12	27	岐阜新聞	飛騨版	石棒をデータ化、模型に
2021	2	4	岐阜新聞	飛騨版	石棒で地域振興、文化庁注目 飛騨市職員三好さん オンラインで講演
	2	9	中日新聞	飛騨版	発掘の石棒 まちおこしに 飛騨市学芸員がオンラインで講演
	2	12	フリーペーパー「SOSHA」	飛騨版	ボットンと民俗館
	3	27	日本経済新聞	全国	くらし探検隊 データの無償提供広がる
	4	11	朝日新聞	岐阜県版	コロナ禍の博物館 発信手法に脚光 SNS駆使しPR オンライン見学会も 飛騨の考古民俗館 執筆依頼続々
	4	27	中日新聞	飛騨版	宮川の考古民俗館 本年度の公開開始
	5	18	NHK	全国	「苦境の博物館 コロナに負けるな！」（みみより！くらし解説）
	6	3	岐阜新聞	Web	岐阜県飛騨市、男根を模した「石棒」をオープンデータ化 創作・商用促し文化財保護に
	6	30	上毛新聞	地域	コロナ下 企画どう発信 県博物館連絡協が研修会
	8	6	高山市民時報	高山市	宮ノ前遺跡（飛騨市）の石器に秋田県産の黒曜石
	8	8	中日新聞	飛騨版	宮ノ前遺跡から秋田産黒曜石 飛騨みやがわ考古民俗館で特別展
	8	12	岐阜新聞	飛騨版	飛騨市・宮ノ前遺跡の研究成果報告会 石器作り、北海道の技法
	11	11	岐阜新聞	飛騨版	飛騨市図書館で文筆家招き学習会 土偶から縄文社会を知る 譽田さん「祈りの道具」
	11	21	NHK	東海	飛騨市でCG映像を使って縄文時代の文化を学ぶ催し
	12	12	中日新聞	岐阜県版	収蔵資料を3Dデータ化 参加型 ファンの心つかむ
	12	12	NHK	全国	もっとNHK／8K文化財プロジェクト
	12	15	中日新聞・東京新聞	東海・関東	誉田亜希子の古代のぞき見／石棒に託す飛騨市の未来 地域資源で町おこし

報道機関への情報提供も積極的に行った。報道機関に取り上げられることで館や石棒クラブの存在を知ってもらい、また域外だけでなく地元の方にも信頼度が増すと考えられるためである。その結果、報道機関からの発信は2021年末まででのべ32回に及んだ(表1)。なお、2021年からは、来館者による館内での写真撮影や動画撮影及びSNS発信を積極的に推進している。関心人口から交流人口への引き上げには、第3者による情報発信が重要と考えたのである。

次に、交流人口へのアウトリーチとは、来館者を増やすこと、企画への参加者を増やすことである。このために、書籍や学会誌等への投稿を積極的に行った(表2)。また、他自治体や大学等からの問合せにも対応している(表3)。これは、普段から全国の博物館等の情報にアンテナを張っている博物館ファンや縄文ファン、研究者等に当館の存在や石棒クラブの取組みを届けるためである。それにより、企画への参加や来館につながると考えた。実際、2020年秋に来館された北相木村教育委員会学芸員と、2021

表2 飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブ関連の発表・掲載書籍等一覧表

年	月	タイトル	発表等	発行機関等
2020	3	飛騨みやがわ考古民俗館の抱える課題と解決への道筋	『岐阜の博物館』No.186	岐阜県博物館協会
	5	行政機関と高等学校が連携した地域研究の試みー岐阜県における官学連携の実践ー	『日本考古学協会第86回総会研究発表要旨』	日本考古学協会
	5	行政機関と高等学校が連携した地域史研究の試みー飛騨市の事例ー	『岐阜県立関高等学校地域研究部報告』第2号	岐阜県立関高等学校 地域研究部
	7	飛騨みやがわ考古民俗館におけるオンライン交流の実践	『飛騨市歴史文化調査室報』第2集	飛騨市教育委員会
	8	自粛期間中でもオンラインで文化財に触れる！	『令和2年度埋蔵文化財担当職員等講習会発表要旨』	文化庁
2021	1	飛騨市におけるコロナ禍だからこそ発信	『季刊考古学』154号	(株)雄山閣
	2	地域博物館の役割を踏まえた新たな挑戦ー収蔵資料の魅力発信によって博物館ファンを増やすー	『発信する博物館ー持続可能な社会に向けてー』	ジダイ社
	3	人口減少が著しい飛騨市で文化財データ公開を進める意義	『デジタル技術による文化財情報の記録と活用3ー著作権・文化財動画・GIS・三次元データ・電子公開ー』	奈良文化財研究所
	5	飛騨市における文化財の活用とその効果ー飛騨みやがわ考古民俗館の事例ー	文化遺産の世界Webレポート	NPO法人文化遺産の世界
	6	飛騨市「石棒クラブ」のオンライン活動	『観光と考古学（観光考古学会機関誌）』第2号Vol.2	観光考古学会
	11	Associated population project at the Hida Miyagawa Archeology and Folklore Museum	ICOM ICR Newsletter2021	ICR (国際博物館会議 地域博物館国際委員会)

表3 口頭発表や他機関からの問合せ等一覧表

年	月	日	タイトル等	内容等	相手先	参加者
2021	1	18	しおんじやま館長のミュージアムトーク おすすめミュージアム紹介！飛騨みやがわ考古民俗館編	年間30日開館の飛騨みやがわ考古民俗館で活動する石棒クラブについて	八尾市立しおんじやま古墳学習館、神戸女子大学博物館経営論（オンライン）	290 YouTube
	2	3	埋蔵文化財を楽しんでもらうための取組みー人口減少が著しい飛騨市で文化財を活用する意義ー	飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブを始めとした飛騨市の文化財の活用について	文化庁（オンライン発表）	800
	2	28	第11回小さいとこサミットOnline	Onlineでの行事運営とその効果	小規模ミュージアムネットワーク（オンライン発表）	-
	5	7	広報ひがしあがつま5月号 通巻182号	石棒の製作工程について	東我妻町	-
	5	23	行政と学校、市民の協働による文化財情報の取得と公開ー飛騨市モデルの事例報告ー	石棒クラブが協働で文化財情報の取得と公開を行う在り方について	日本考古学協会第87回総会研究発表（オンライン発表）	100
	6	29	コロナ禍における博物館の挑戦ーオンラインツアーの実践を通じて	オンラインツアーの実践と行う意義について	群馬県博物館連絡協議会（オンライン発表）	50
	7	19	東京農工大博物館の教員・学生とオンライン交流	少子高齢化と博物館運営について	東京農工大の博物館教員と学生（オンラインミーティング）	4
	8	24	「発信する博物館ー社会に働きかける博物館をめざしてー」トークイベント	地域博物館の役割を踏まえた飛騨市の挑戦	『発信する博物館』トークイベント（オンライン発表）	40
	9	15	石棒クラブと地方創生について	石棒クラブが飛騨市役所内で円滑に事業を進めることができていること等について質疑	大正大学地域構想研究所（オンラインミーティング）	1

※千葉県大網白里市・福島県福島市など自治体から問合せが他に9件。

年春に来館された徳島市立考古資料館学芸員とつながりができ、2021年11月に3者でオンラインイベント開催に至った。

最後に、行動人口へのアウトリーチとは、館資料の保存活用を協働で行って、参加側にも発信側にもなることと考えた。このため、石棒撮影会や3Dデータ化合宿など、行動人口による資料情報の取得と公開を進めた。交流人口から行動人口への引き上げは、一度目のイベント参加や来館で何を体験するかによって左右されると考えられる⁹⁾。当館で最も愛着が湧くと考えている体験が博物館資料に触れることである。撮影や3Dデータ化の際に資料に触れ、愛着が湧き、本質的価値の共有につながると考えている。なお、館のために一度行動すると、引き続き行動される方の割合が高くなると考えている。

(4) 令和3年度(2021年度)の活動

令和3(2021)年度での活動では、先に記した3つのカテゴリーを意識して17の関連企画を実施した。形態は、対面企画5(うち共催3、文化庁補助事業1)、オンライン企画3(うち文化庁補助事業1)、他機関に協力9である(表4)。

関心人口に対しては、入り口を広げるために、図書館やAkeruEなどと共催事業を行った。また、主催事業では図書館・3Dなど多様な切り口を準備した。さらに、オンラインでは大人対象、対面は小学生対象と、形式によって年齢層を変えた。

交流人口に対しては対面とオンラインで体験学

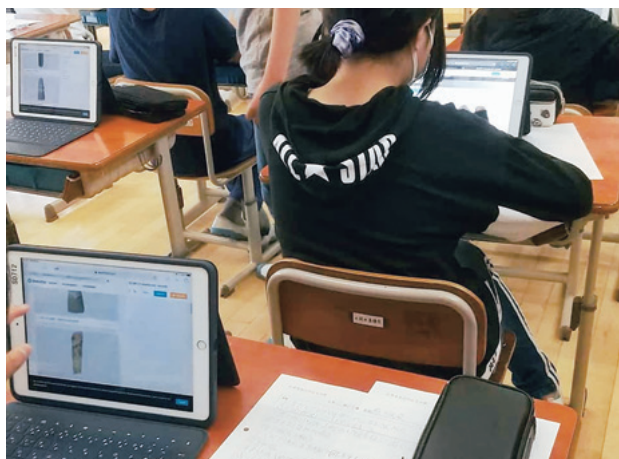


図5 小学校出前授業での3Dデータ活用

習・講座を実施した。また、飛騨みやがわ考古民俗館・飛騨市図書館と実施場所も変えた。オンライン企画の内容は、最も多い問合せである「文化財3Dデータを地域資源としていかに活かすことを考えているのか」というものに答えようとした企画である¹⁰⁾。そこでは、市内のものづくりカフェ・FabCafe Hidaで3Dデータのプリントアウトサービスを行っていること¹¹⁾や、小学校への出前授業で3Dデータと実物を比較観察した事例等を紹介した(図5)。

行動人口に対しては、文化財情報の取得と発信について市民参加で行って本質的価値の共有につなげることを意識した。石棒クラブインスタグラム用の石棒写真撮影会や、3Dデータ合宿などである。

3. 成果と課題

(1) 個別企画と取組み全体のどちらも評価対象に

評価を考える際には、ステークホルダーごとにねらい通りの満足度を得られているかを計測する必要がある。このため、必然的に企画の数は多くなり、一つの企画の参加者数の多寡だけでは評価の対象としないスタンスである¹²⁾。結果は、個別企画の満足度については、基本的に高いものの、アンケートの回収率が低かった。このため、満足度の高い人のみアンケートを回答している可能性がある。アンケートの回収率を高めるか、満足度を測る別の方法を考えるのが今後の課題である。

また、個別の企画にとらわれず、石棒クラブの取組全体を支援する在り方として、飛騨市がんばれ応援寄付金(以下、ふるさと納税)を活用している。飛騨みやがわ考古民俗館に関するメニューとして、当館の茅葺き民家・市指定文化財「旧中村家」の保存活用事業を用途メニューにしている。これに対し、令和2年に10,743,000円、令和3年に22,307,000円のご寄付をいただいた¹³⁾。

以上のように、実施した企画は対象が異なるため、個別企画ごとに評価を行う必要があると考えられた。また、このような取組み全体に対する評価も必要と考えられる。

表4 飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブ関連企画等

日程	開催形態	タイトル	主催	概要	対象	キーワード	参加人数	満足度	アンケート回答数	
7/22 (木) 18:30-19:30	主催: オンライン	3D データ化が未来を創る?～地域 のちょっとしたものが地域の宝に～	石棒クラブ (文化庁「地域と共働した博物館創造活動支援事業」)	飛騨みやがわ考古民俗館・石棒クラブでは、令和2年度より博物館資料の3D データ化とオープンアクセスを進め、多くの方々に活用されている。今回、その意義を考えるトークイベントを、自然科学・広葉樹・ファンクラブの中心人物らと実施し、地域比較できる資料を可視化したことが評価できると結論付けた。	関心人口	石棒、テクノロジー、飛騨の広葉樹、飛騨市ファンクラブ	61	96%	26	43%
8/7 (土) 10:00-11:00	主催:対面 飛騨みやがわ考古民俗館	宮ノ前遺跡出土旧石器説明会	飛騨市教育委員会	今年6月の日本旧石器学会にて青木要祐氏が、宮ノ前遺跡の旧石器の黒曜石に、秋田県男鹿産のものが含まれていると発表された。その成果を受け、当該資料の公開と説明会を行った。	交流人口	考古学	20	－	－	－
8/24・25 (火・水) 19:00-21:01	協力:対面 中澤邸	縄文ともとしびナイト in 中澤邸	中澤太一、ひょうたんマダム	宮川町中沢上で、かつて養蚕で財をなした豪農・中澤一族が守り続けてきた築360年の古民家を次世代に継承するため、石棒3D データから作った石棒ろうそくや縄文土器を模したひょうたんランプに灯りとした空間を作出した。	交流人口	飛騨市 宮川町、作家	－	－	－	－
9-10月	協力:オンライン	縄文ドキドキ総選挙2021	縄文ドキドキ会	塩屋金清神社遺跡で出土した1,074本の石棒が、縄文ドキドキ会主催のネット投票にエントリーした。40遺跡から参加があり、9月26日から10月31日まで投票され、見事3位に1日1ポイント投票というルールから、全国に多くの大ファンがいることで差が生じると考察される。1位が南アルプス市、2位が垂井市というファンが多い縄文が選ばれているのも、それを示していよう。	関心人口	縄文	670	－	－	－
11/3 (水) 19:00-20:30	主催: オンライン	徳島・佐久・飛騨とつながりあう石棒オンライン交流	石棒クラブ	徳島市考古資料館で「石棒って何だ!？」展を企画担当の学芸員・村田昌也氏、日本最大の石棒がある長野県佐久地方の縄文研究者・藤森英二氏をお招きし、石棒クラブ・三好と共に、各地の石棒の時代性や地域性の共通点・相違点を共有するオンラインイベントです。	交流人口	石棒	21	86%	7	33%
11/7 (日) 10:00-11:30 13:00-14:30	主催:対面	土偶女子から見た“やさしい”縄文の世界	石棒クラブ (文化庁「地域と共働した博物館創造活動支援事業」) 飛騨市図書館講座	コロナ禍で、人と人とのつながりが希薄になったと言われる現代において、相手を尊重し、思いやり、助け合って生きていた縄文時代の社会を学ぶ講座。	交流人口	縄文、土偶、図書館、コロナ禍	33	81%	33	100%
11/11 (木) 18:00-19:30	主催: オンライン	関係人口には要注意? 石棒クラブが考える、文化財を守る地域の未来とは?	石棒クラブ	石棒の聖地である飛騨みやがわ考古民俗館という場所を舞台に、石棒をはじめとした文化財の活用を通じて、飛騨市から日本全国そして世界へ幸せを届けることを目標にしている。杉本あおい氏を招聘し、その活動を支える「関係人口」に焦点をあてたオンライントークイベント。	関心人口 交流人口	石棒、関係人口	25	100%	7	28%
11/13 (土) 14:00-15:30	共催:対面 パナソニック東京センター	土器を楽しくつくろう 昔の人から学ばうさい暮らし	石棒クラブ、Panasonic クリエイティブミュージアム「AkeruE」	最先端技術でモノを見せることに特化した「アケルエ」において、縄文の面白さや感動に出会ってもらう。子ども対象で、自分なりに答えを持ってもらうことをゴールとする。館から縄文土器を持っていき、実際に触れてもらう。完成後の自分の作品と縄文土器の輪積みの痕跡とを比較してもらう。	関心人口	縄文土器、親子	25	－	－	－
11/21 (日) 9:10-11:40	共催:対面 飛騨みやがわ考古民俗館	8K 遮光器土偶×飛騨宮川の縄文	飛騨市、NHK	8K モニターとタブレットにて、重要文化財の遮光器土偶を拡大観察する。発見した特徴と同じ特徴があるものを展示室の実物で探す。それを学芸員がケースから取り出し、触れ、改めて観察し、気付いたことを発表する。	交流人口	小学生の学習、縄文、3D	13	－	－	－
11/27・28 (土・日)	共催:対面 飛騨みやがわ考古民俗館、FabCafe Hida	石棒クラブの3D 合宿	岐阜県博物館協議会飛騨ブロック部会、石棒クラブ	収蔵資料の価値を閉館期間中にいかに届けられるかという視点で公開している3D データ作成を手伝ってもらった。参加者は、3D データ化を学ぶことができるメリットがある。資料の情報の取得と公開を一般参加で行う企画である。	行動人口	縄文土器、石棒、石製品	7	100%	5	71%
11/13 (土) 27・28 (土・日)	協力:対面 FabCafe Hida	縄文ファブカフェ、縄文時代にあったであろう食材で料理を提供	FabCafe Hida	FabCafe Hida 内に縄文や石棒をテーマにした小さな展示コーナーを設置する。11/13 (土)、27 (土)、28 (日) に、「MOTHER'S HOUSE」による特製「縄文ベール」の販売をおこなう。	関心人口	縄文、カフェ	4	－	－	－
随時	協力:対面 FabCafe Hida	縄文3D データをプリントアウトサービス	FabCafe Hida	石棒クラブがアップロードしている飛騨みやがわ考古民俗館収蔵資料の3D データを、3D プリンターでプリントアウトできる。	行動人口	縄文、石棒、カフェ	2	－	－	－
随時	協力:対面	飛騨みやがわ考古民俗館	個人	調査研究対応	行動人口	縄文	のべ12	－	－	－
随時	協力:対面	飛騨みやがわ考古民俗館	河合・宮川保育園、飛騨の森ガイド協会ほか	市民団体対応 展示解説、火おこし体験・拓本体験	交流人口	縄文、飛騨の歴史	28	－	－	－
随時	協力:対面 資料貸出	飛騨市美術館企画展「山と生きるひとびと」展	飛騨市美術館	資料の貸出	関心人口	美術、人の木材利用	481	－	－	－
随時	協力:画像活用	重要文化財・緑川東遺跡の写真パネル展 (11月)	国立市教育委員会 会場1: 旧国立駅舎、会場2:くにたち郷土文化館	重要文化財の石棒写真パネル展で、Facebook 等で公開済の飛騨みやがわ考古民俗館の石棒写真を活用	関心人口	石棒	会場1: 7200、会場2: 648	－	－	－
随時	協力:対面 資料貸出	岐阜県博物館企画展「岐阜の縄文世界」	岐阜県博物館	県博物館企画展 (2022/1/8～3/13) に資料を貸出	関心人口	縄文	－	－	－	－



図6 3D合宿の様子

(2) 事業の評価を得るために途中経過も発信

飛騨市では、寄付者の想いを取り入れるため、使い道を明確にして、「日本一ふるさと納税をしてよかったとっていただける自治体を目指す」と宣言している¹⁴⁾。前述の通り、その使い道の一つに、飛騨みやがわ考古民俗館にある茅葺き民家の保存活用事業がある¹⁵⁾。ここでの寄付が多い理由は、石棒クラブや飛騨市の取組に賛同された方が多いからと考えている¹⁶⁾。

この事業の発信として、2021年11月の3D合宿の休憩時には、茅葺き民家「旧中村家」で囲炉裏を囲むカフェを準備し、鮎を焼いて食べた。そこでは、文化財建造物としての評価を学芸員が語ることに加え、地元の方から食材等を用いたカフェメニューの説明や飛騨の鮎の説明を行った（図6・7）。

これは、どのように寄付金を使っているか、寄付するとどんな未来が待っているかを発信することも重要と考えているからである。また、飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブの事業では、関係人口と飛騨市民との関わりが少ない課題があった。今回の食材の説明のように、今後も市外の方と地元の方が交流する場を創出したい。

このように、行動人口に位置付けられる賛同者にご納得いただき、さらに行動いただく状況をつくるためには、ふるさと納税に関わらず経過の発信も重要と考えている。

(3) 来館者が増加

以上のような取り組みを進めた結果、過去15年



図7 茅葺き民家での鮎の説明

で最高の来館者数となった（表5）。また、飛騨市や高山市といった飛騨地区からの来所者の割合が、2019年度は45.0%、2020年度は60.5%、2021年度は53.3%と増えてきている¹⁷⁾。「新聞で見た」「テレビで見た」などと声をかけてくれる状況も生まれ、第3者の発信により認知されて来館につながっているのではないかと推測された。

これは関心人口が交流人口にステップアップした段階と考えられる。一方で、関心人口のどれくらいの割合が交流人口となったのか数値化したものがないので、来年度以降検証していきたい。

(4) 閉館時の発信・活用で愛着を生じさせる

一連の企画において石棒クラブが2019年の設立以来意識しているのは、年間30日開館を前提とする中で、いかに資料を活用するかということである。その一つが3Dデータの整備である。これは、10月末日付けで石棒クラブによる石棒3Dデータが18,600回以上閲覧され、GIGAスクール構想によりタブレットを持った児童生徒が授業で石棒等の3Dデータを観察し、また今夏には3Dデータを使って石棒ろうそくを作成した作家がいたなど、3Dデータのオープンデータ化は当館の価値を共有するきっかけになりうると考えていたからである。このため、館資料の3Dデータを増やして活用につなげたい思いから、データ化を手助けする人を「ヒダスケ！」にて募集して行った¹⁸⁾。なお、3D合宿で作られた3Dデータは、すでにスケッチファブの石棒クラブページで公開している¹⁹⁾。

表5 飛騨みやがわ考古民俗館の来館者数の推移（過去15年）

年	来館者数	開館日	備考	市民の割合
2007	467	4～11月の土日祝	管理人による開館日対応。縄文土器づくり等講座実施。	-
2008	503	4～11月の土日祝	管理人による開館日対応。縄文土器づくり等講座実施。	-
2009	435	4～11月の土日祝	管理人による開館日対応。縄文土器づくり等講座実施。	-
2010	540	4～11月の土日祝	管理人による開館日対応。縄文土器づくり等講座実施。	-
2011	79	予約開館	予約を受けて職員対応。	-
2012	153	予約開館	予約を受けて職員対応。縄文土器づくり等講座実施。	-
2013	103	予約開館	予約を受けて職員対応。縄文土器づくり等講座実施。	-
2014	67	予約開館	予約を受けて職員対応。	-
2015	82	予約開館	予約を受けて職員対応。固定電話がなくなる。	-
2016	88	予約開館	予約を受けて職員対応。	-
2017	193	予約開館	文化振興課発足。館の有効活用を考え始める。 出張展示として飛騨市美術館企画展「石棒の聖地 塩屋を掘る」展。講座等を再開。	-
2018	172	年間30日開館	管理人の雇用開始。学芸員職を担当者とする。	-
2019	436	年間30日開館	石棒クラブ発足。入館無料開始。	45.0%
2020	201	年間16日開館	コロナ禍により開館日数減。4人の管理人が高齢を理由に辞職。	60.5%
2021	580	年間28日開館	豪雨等により閉館日あり。管理人に20代を2人雇用。	53.3%

ところが発信のための事業を実施したところ、別の効果も発見した。それは、参加者全員が次回も参加したいと表明し、また「100枚前後の撮影を行ううちに資料に愛着が湧いた」という旨のコメントがあったことである。これは、インスタグラム用の石棒撮影会では多くても一つの資料につき3枚程度の撮影であったものが、桁違いの撮影のために資料と向き合う時間が長くなって愛着が芽生えたものと推測された。

愛着は、関係人口との関係性を深めるための重要な要素である²⁰⁾。この仮説からは、自身がデータ化した資料はいつでも石棒クラブホームページから閲覧可能であり、さらに本物に会いたくなれば来館して見ることができる、という一連の流れを生じさせることが可能ではないかと想定された。これについては、今後も実践して検証していきたい。

4. 石棒クラブが与える影響の評価指標

ここまで、昨年度から課題としていた評価の在り方を検証するための今年度の企画について述べてきた。最後に、石棒クラブの mission・vision・value に沿った活動による評価や効果を測定するための指標について、現段階の考えを記しておきたい。

まず、石棒クラブの value 及び vision からは、「事業の実施回数」「新たな参加者数」「リピーター数」「市民と関係人口がつながる企画数」「参加者同士のつながりが生まれる企画数」「ホームページや SNS、YouTube、3D データの閲覧数」「石棒写真や館資料 3D データのアップロード数」「共催や協力を行った個人や団体数」「報道や書籍での掲載数」「ふるさと納税の数」などが指標となろう。これらはアウトプットに関わることである。

次に mission からは「石棒クラブの企画を来年度以降も実施していくメンバーの原動力になっているか」「石棒クラブは企画側・参加側どちらの居場所にもなっているか」「石棒クラブの企画参加者の満足度が高いか」「来館者の知的好奇心は満たされているか」「賛同者であるふるさと納税による寄付者の満足度は高いか」「飛騨市のイメージアップにつながっているか」「飛騨市の存続、活性化に資することができるか」「飛騨みやがわ考古民俗館の収蔵資料の後世への継承となっているか」が指標になると考えられる。これらはアウトカムに関わるものである。

今年度の企画を通じ、このような指標が想定された（表6）。ここからは、関係人口増加の評価は人

表6 飛騨みやがわ考古民俗館の評価イメージ

効果	関連する MVV	項目	評価指標
アウトプット	value 感謝と敬意 オープンと多様性 チャレンジと先進性	多様な分野と事業を実施	石棒写真や館資料3Dデータのアップロード数
			共催や協力を行った個人団体数
			報道や書籍での掲載数
			ふるさと納税の寄付件数
	vision あらゆる人が文化財を楽しむ、人生を豊かにするためのプラットフォームになる	飛騨みやがわ考古民俗館・石棒クラブのファンに、市民や多様な参加者を加え、ファンをシェア	事業の実施回数
			新たな参加者数
			リピーター数
			市民と関係人口がつながる企画数
			参加者同士のつながりが生まれる企画数
			ホームページやSNS、YouTube、3Dデータの閲覧数
アウトカム	mission 石棒をはじめとした文化財の活用を通じて、飛騨市や日本全国、世界の人に幸せを届ける	飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブに関わる人が充実しているか	石棒クラブの企画を来年度以降も実施していくメンバーの原動力になっているか
			企画側・参加側どちらの居場所にもなっているか
			石棒クラブの企画参加者の満足度が高いか
			来館者の知的好奇心は満たされているか
	mission 石棒をはじめとした文化財の活用を通じて、未来の新しいミュージアムの姿を創り出す	飛騨みやがわ考古民俗館と飛騨市の存続	事業賛同者であるふるさと納税による寄付者の満足度は高いか、リピーターの割合は高いか
			飛騨市のイメージアップにつながっているか
			飛騨市の存続、活性化に資することができるか
			飛騨みやがわ考古民俗館の収蔵資料の後世への継承となっているか

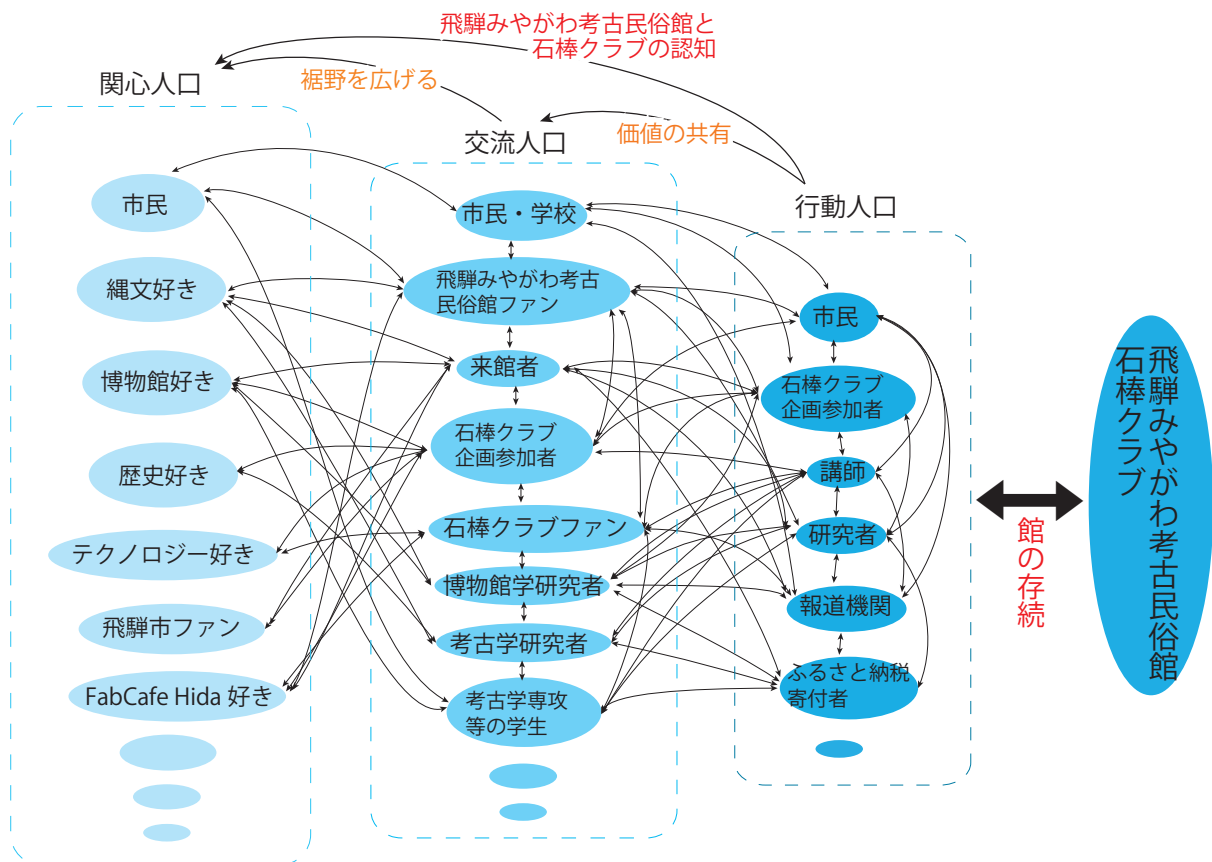


図8 石棒クラブの価値連鎖のイメージ図

矢印は各ステークホルダー間で与える価値を示す。その内容は図が煩雑になるため省略する。

数で計測するものではなく、全体に対しての割合で行うべきと想定された。これをいかに計測していくか、具体的なアンケート等の書きぶりは今後の課題としたい。

また、石棒クラブは業務や義務でない、完全ボランティアの任意団体であり、その原動力は「メンバーの達成・満足・愛着」である²¹⁾。石棒クラブの継続及び展開のために、ひいては飛騨市の関係人口拡大のために、原動力の具現化をさらに深めていく必要がある。

おわりに

以上、石棒クラブが飛騨みやがわ考古民俗館を舞台に実践している関係人口づくりを飛騨市モデルとして報告した。すなわち、関心人口を増やすために報道等や共催事業者による発信を増やし、関心人口から交流人口に引き上げるために興味や問題意識により求めるものが多様という認識で様々な切り口のイベント等を企画し、交流人口を行動人口に高めるために記録作成の作業を全国に関わりたい人で行う仕組みをとった。これにより、取組みに賛同する方々からふるさと納税のご寄付を受けることができ、また来館者が増えた。

この結果からは、各企画の参加者の満足度は高く、飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブに関わる人が幸福な状態を創出することができたと言える。missionにある「文化財の活用を通じて幸せを届ける」に沿ったものとなった。さらに、発表の機会には、研究者からのコメント、多様な地域課題と向き合っている他自治体や博物館等の担当者との意見交換もあった。そこには発信側と受信側という関係でなく、関わる個人と団体が発信側にも受信側にもなる在り方が認められた(図8)。これも、「新しいミュージアムの姿を創り出す」という mission に沿ったものとなったと考えられる。

少子高齢化は全国的な社会課題である。関係人口を増大させる飛騨市モデルは、今後、同じ社会課題に直面するであろう博物館等に参考にされることを

目指している。しかし、客観的な数字で示すことができていない事項があるなどの課題も残る。また、評価指標による測定も今後の課題である。引き続き実践と検証により精度を高めていき、少子高齢化という地域課題²²⁾を抱える地域と博物館等に活かされていくモデルを構築していきたい。

【謝辞】

本稿は、鳥谷真佐子先生・阿見雄之氏・野口淳氏によるワークショップの内容、令和2年第2回文化庁埋蔵文化財担当職員等講習会、第11回小さいとこ(小規模ミュージアムネットワーク)サミットOnline、日本考古学協会第87回総会での発表をもとに執筆した。ここには、普段から意見交換する石棒クラブコアメンバーの考えも含まれる。発表の機会を頂戴した皆様、有意義なご意見を頂戴した皆様に記して感謝申し上げます。

【補註および引用参考文献】

- 1) 飛騨市 2020『飛騨市総合政策指針～人口減少先進地が示す人口減少時代の処方箋～(令和2～6年度)』
- 2) 三好清超 2021「人口減少が著しい飛騨市で文化財データ公開を進める意義」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用3－著作権・文化財動画・GIS・三次元データ・電子公開－』奈良文化財研究所研究所研究報告第27冊
- 3) 大下永 2020「飛騨市の文化財活用事例」『全史協会報2020』全国史跡整備市町村協議会事務局、三好清超 2020「飛騨みやがわ考古民俗館の抱える課題と解決への道筋」『岐阜の博物館No.186』岐阜県博物館協会、三好清超・恩田知美・島田崇正・林直樹 2020「行政機関と高等学校が連携した地域研究の試み－岐阜県における官学連携の実践－」『日本考古学協会第86回研究発表要旨』日本考古学協会、三好清超 2021「飛騨市におけるコロナ禍だからこそその発信」『季刊考古学第154号』(株)雄山閣、三好清超 2021「地域博物館の役割を踏まえた新たな挑戦－収蔵資料の魅力発信によって博物館ファンを増やす－」『発信する博物

館－持続可能な社会に向けて－』ジダイ社、三好清超
2021「飛騨市「石棒クラブ」のオンライン活動」『観光と考古学（観光考古学会機関誌）第2号 Vol.2』観光考古学会

- 4) 三好清超 2021「埋蔵文化財を楽しむための取組み－人口減少が著しい飛騨市で文化財を活用する意義－」『令和2年度第2階埋蔵文化財担当職員等講習会－発表要旨－』文化庁
- 5) 前掲 (4)
- 6) 前掲 (2)
- 7) <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-18K18665/> (2021年12月5日確認)。
- 8) 日本考古学協会第87回研究発表での発表スライド参照。 <http://hida-bunka.jp/library/>
- 9) 杉本あおい・杉野弘明・上田晶子・船坂香菜子 2020「現代日本社会における「関係人口」の実態分析：全国アンケート調査の結果から」『沿岸域学会誌』第33巻第3号 沿岸域学会
- 10) <https://www.youtube.com/watch?v=fNluJ6dD5Ow> (2021年12月18日確認)。
- 11) FabCafe Hidaでは2020年11月サービス開始以来、3組のお客様がプリントアウトされたとのことである。1組目は2020年11月の石棒強調月間に30代前後の男性、2組目は2021年4月に40~50代の石棒ファンの男性、3組目は2021年10月に20~30代の石棒ファンの女性2人である。
- 12) 令和3年11月22日(月)【オンライントーク博物館とこども】第2回「博物館をとどける－こども向けアウトリーチプログラムについて－」において、兵庫県立人と自然の博物館では「利用者」を本館利用者だけで

なく、「サテライト」「共催」「アウトリーチ」の利用者と考えている旨のコメントがあった。加えて、アウトリーチは館に来ない人の思いを気づく機会となる旨のお話もあった。

- 13) ふるさと納税では、2020・2021年で1,479名から1,578件のご寄付があった。リピーターは38名、99件である。その割合は、寄付者2.5%、寄付件数6.2%となった。また、「寄付者の声」には「飛騨みやがわ考古民俗館の取り組みが素晴らしいです。これからも楽しみにしています。」とのメッセージもあった。リピーターやこのようなメッセージ添付者は、取組み全体の評価者であり、行動人口に位置付けられる。
- 14) <http://www.city.hida.gifu.jp/soshiki/9/25536.html> (2021年12月14日確認)。
- 15) <https://www.city.hida.gifu.jp/soshiki/9/328.html> (2021年12月14日確認)。
- 16) 前掲 (4)
- 17) 来所の調査は2019年から開始した。2020年は、コロナ禍のなかで、地元からの来館者が多くなったものと考えられる。
- 18) 「ヒダスケ！」については、前掲 (2) を参照。
- 19) <https://sketchfab.com/sekibo.club> (2021年12月18日確認)。
- 20) 前掲 (9)。
- 21) 前掲 (4)。
- 22) 少子高齢化対策の一つとして、飛騨市では関係人口の増大・ファンづくりを推進している。そのために発信が必要と考えており、飛騨市長は「発信は仲間づくり」と言い切る。発信が新たな「つながり」を生むと考えている。